

## 第3回までの論点の整理と提言へのまとめ

### 1 財政・経営に関すること

第3回までの委員会の議論等	提言の方向性（案）
<p>① 今後の施設整備にあたっては、ピーク時だけを考えるのではなく、それ以後の火葬件数が減少していくことも考慮して検討することが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の建替え・改修等に係る経費を含めた収支状況では、マイナスとなっており、今後の中央斎場の管理・運営については、将来の火葬件数の需要予測等も含めて、効率性の観点を踏まえる必要がある。</li> <li>○ 施設の整備については、経費を考慮し効率的に実施すべき。</li> </ul>

## 2 管理・運営面に関すること

第3回までの委員会の議論等	提言の方向性（案）
<p>1 告別ホール及び収骨室への案内に係る待ち時間の短縮を図る。</p> <p>① 収骨室の増設等により，待ち時間を極力ゼロにするよう努力すべきである。</p> <p>② 炉待ち，収骨待ち発生対策のための予約制導入は必要ではないか。</p> <p>③ 受付順による火葬順番待ちの具体的な対策は必要である。需要予測で火葬件数が増加した場合，火葬炉の利用頻度（5回転から6回転）で対応するとしているが，実際は時間帯が集中するので，条件も検討しないと対応できない。</p> <p>④ 受付及び告別ホール待ちによる，供車内での来場者の待機は対策が必要である。</p> <p>2 待合室等待合空間の環境整備を行うことにより，待合時間の快適性の向上を図る。</p> <p>① スペースの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 待合室が混雑することによる市民サービスの低下を解決すべき。らせん階段を外付けにする，喫茶室の厨房スペースを活用する等によりスペース確保できないか。</li> <li>○ 喫茶室よりも待合室の混み方の方がひっ迫している。両方のスペースを有効活用できるよう喫茶室と待合室をセットで改善すべき。</li> <li>○ 無駄な投資にならないよう考慮しつつ，多様化する来場者のニーズも踏まえる必要がある。</li> </ul> <p>② 待ち時間中の応対等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 火葬時間の経過や終了予定時間等の御遺族への細やかな情報提供を行うことで，心理的圧迫感を軽減できるのではないか。</li> <li>○ 待ち時間を表示することはできないか。</li> <li>○ 喫茶室の拡充やメニューを充実して過ごしやすくできないか。</li> </ul>	<p>1 告別ホール及び収骨室への案内に係る待ち時間の短縮を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 火葬の流れのなかでボトルネックとなっている収骨室の増設が必要である。</li> <li>○ 予約制については，将来的に必要なになるが，手待ち時間の発生により効率が悪くなる可能性があるため，市民や葬祭業者の理解を得ながら，1時間枠におおまかに当てはめていく方法等を検討していく必要がある。</li> </ul> <p>また，実施時期については，火葬件数のピーク時に向けた増加状況を踏まえ，一体的に検討する必要がある。</p> <p>2 待合室等待合空間の環境整備を行うことにより，待合時間の快適性の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 待合室の拡充，レストランの新設，より質の高い接遇など待合空間の環境整備を行うことにより，待合時間の快適性の向上を図る必要がある。</li> </ul>

### 3 火葬技術に関すること

第3回までの委員会の議論等	提言の方向性（案）
<p>① ロストル方式を導入している都市は少ないが、ロストル方式は連続使用が可能で、大変有効な設備方式である。</p> <p>② 市職員の火葬技術は高い。</p> <p>③ 火葬技術の伝承は大切なこと。火葬業務は、公共性が高く、直営で実施すべき。委託化は、技術伝承の観点から現状では困難だと考える。</p> <p>④ 市職員は、指導的な役割を担えるため、ロストル方式の火葬技術を他都市に伝承する（委託を受ける）ことも可能で、市職員にインセンティブが働くのではないか。</p> <p>⑤ 技術伝承のために火葬技術を文書化すればよいのではないか。</p> <p>⑥ 火葬技術者への認証制度（マイスター制度）導入を検討すべきである。</p>	<p>○ ロストル方式は、大変有効な設備方式である。</p> <p>○ 技術伝承を含め、現在の市職員の火葬技術は非常に高い。</p> <p>○ 火葬業務については、現在の市職員が有する高い技術を活用すべきである。</p>

### 4 施設設備に関すること

第3回までの委員会の議論等	提言の方向性（案）
<p>① 中央斎場は全市民が利用する施設であることの認識（予算確保、計画停電対象からの除外等）をすべきである。</p> <p>② 火葬件数が今後増加していくことも踏まえ、火葬炉の耐火レンガなど大規模な改修は計画的に実施すべきである。</p> <p>③ 災害等緊急時の対応について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緊急時の電源確保のため待合室も含めた自家発電が必要である。</li> <li>○ 分場の活用はリスクの分散という観点から検討が必要ではないか。</li> <li>○ 火葬炉メーカーを特定するリスク（会社の倒産時の対応等）を懸念する。</li> </ul> <p>④ バリアフリーについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ エレベータの需要状況を検証し2基目が必要ではないか。</li> <li>○ 告別ホールにおいて車椅子での焼香ができない現状を改善すべきである。</li> <li>○ 待合室と喫茶室との間の段差があり、バリアフリー化が必要である。</li> <li>○ 収骨室への入室可能人数拡大と車椅子スペースを確保する必要がある。</li> </ul>	<p>○ 大規模災害のみならず不測の事態に備えた危機管理体制を構築されたい。</p> <p>○ 耐火レンガの積み替え、機器の更新など大規模改修は、計画的に実行されるべき。</p> <p>○ バリアフリー化については、来場者の安全性の確保の観点からも、速やかに取り組まれることが必要である。</p>

## 5 文化慣習に関すること

第3回までの委員会の議論等	提言の方向性（案）
<p>① 火葬後の残骨灰の取扱い。聖土槽の利用が増えている。今後の対策も必要である。</p> <p>② 中央斎場は、文化度の高い施設であり、その高さを市民にPRすべきである。</p>	